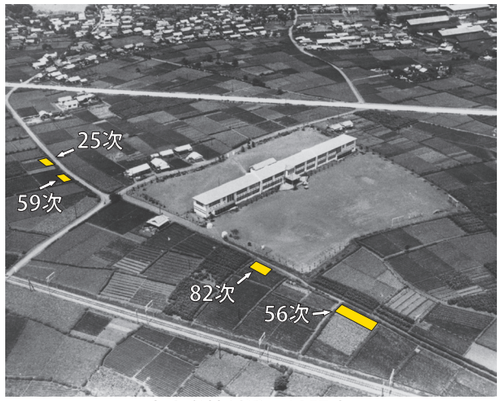
■東の上遺跡と鎌倉街道 上つ道（入間川道）

南小学校付近の鎌倉街道の脇の発掘調査で、道筋に沿った溝跡を検出しました。溝跡は、25 次の地点から 56 次の地点を超えて、さらに南の長久寺西の切通し坂上の 54 次の地点へ行くほど深く掘り下げられていて、鎌倉街道の遺構と考えられます。



南小学校付近　1957 年

東の上第 25 次調査の溝跡

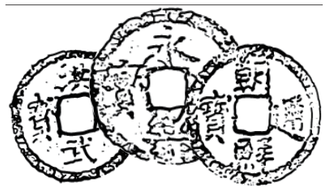
東の上第 82 次調査の溝跡

東の上第 56 次調査の溝跡

東の上第 54 次調査の溝跡

実蔵院南

25 次の地点からさらに北の実蔵院南の道筋も切通し坂です。説明板が設置されています。


銅銭

東の上第 59 次調査 銅銭出土

永楽通宝などの銅銭が地鎮具として溝跡の底に埋められていました。室町・戦国時代に鎌倉街道が改修されたようです。

■小手指原と合戦

小手指原（小手指ヶ原）は草刈場として使われた武蔵野の草原の一部でした。その広さは、明治時代に成立した「小手指村」の範囲に近いものだったでしょう。視界が開け、その中を鎌倉街道 上つ道が通るので合戦場にもなりました。

小手指原は、鎌倉時代の終わりに新田義貞らの倒幕勢力と幕府の軍勢が上つ道を進撃するなかで両者が遭遇した合戦場であり、南北朝時代には足利尊氏らと宗良親王を仰ぐ新田氏らが争い、尊氏が新田勢を追い払った武蔵野合戦の合戦場のひとつでもありました。これらの合戦の舞台となった分倍河原、久米川や入間河原、高麗原、苦林、笛吹峠などとともに上つ道でつながり、軍勢が移動するようすが表われています。

埋蔵文化財調査センターの近くに新田義貞伝承の誓詞橋、白旗塚と小手指原古戦場の碑が点在し、北野天神社には宗良親王の「こてさしはら」での歌の碑が置かれています。

小手指という地名は、所沢市のほかに茨城県五霞町・山梨県北杜市にあります。

鎌倉街道 上つ道

所沢市内には鎌倉街道 上つ道と言い伝えられている道筋があります。 鎌倉という言葉に惹かれ、興味を寄せる方がその道筋を歩かれています。

南小学校南付近　2012 年

■鎌倉街道

鎌倉に武家政権ができると、人々は各地から鎌倉へ向かい、やがて通行量の多い道筋が鎌倉街道になっていきました。

その中で、関東地方西部を通る上つ道は主要な街道のひとつでした。実際に上つ道は行き交う人々が集中する「過密道」で、信越地方のほかに東北地方からの通行も多かったといいます。

やがて社会の変化とともに人々の動きも変わり、多くの道筋が失われました。そのため、鎌倉街道は幻の街道と呼ばれます。

■鎌倉街道 上つ道 を歩く－標柱・説明板を頼りに－

上つ道沿いには、鎌倉街道の標柱・説明板が設置されています。見つけながら歩くと楽しいですよ。

西富小学校前

泉町の分岐点

所沢中学校前

南小学校前

＊表紙背景　鎌倉街道（南小学校南付近 1966 年）

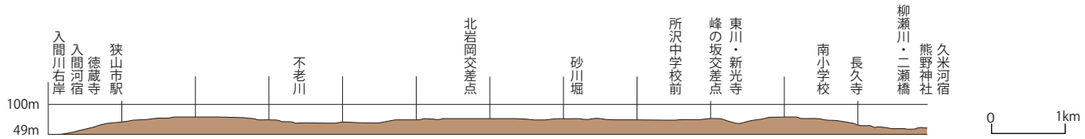
■ 鎌倉街道 上つ道 ー３本の道筋ー

所沢市内の鎌倉街道 上つ道の主な道筋は入間川道（いるまがわみち）・堀兼道（ほりがねみち）・小手指道（こてさしみち）の３本です。名称は仮称です。

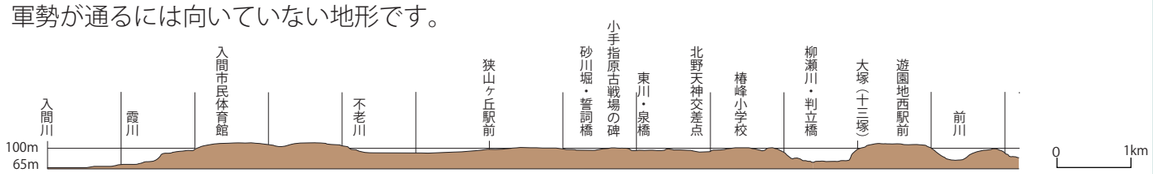
- ●入間川道　群馬県高崎市方面から来て狭山市を経て市域の中央部を通る道筋です。上つ道の本道とされています。
- ●堀 兼 道　群馬県太田市・栃木県足利市方面から来て坂戸市を経て、市域の北部を通る道筋です。
- ●小手指道　入間市方面から来て市域の中西部を通る道筋です。

■ 入間川道・小手指道の高低差 ー地形断面ー

入間川道　逃げ水という蜃気楼（しんきろう）が現れ、水場は少ないのですが、歩きやすい平らな道筋です。武蔵野の平野が広がり、合戦を一望できます。



小手指道　水場は豊かですが、曲り道と急坂が多いため、人と馬につらく感じる道筋です。先を急ぐ軍勢が通るには向いていない地形です。



■ 鎌倉街道 上つ道 を歩くー新旧の風景をくらべるー

年月が経つにつれて道筋の幅が広げられ、舗装されています。

長久寺門前

長久寺西の切通し坂

泉町の分岐点

北所沢町先の交差点

小手指原古戦場の碑

山口小学校西の坂

大塚の坂道　大塚（十三塚）

■鎌倉街道 上つ道 を歩くー地図を携（たずさ）えてー

1 ～ 12「旧鎌倉街道」標柱・説明板位置

標柱は 1 ～ 10　　説明板は 11 ～ 12

9 ・ 11 ・ 13 ～ 16　鎌倉街道新旧比較撮影地点

＊ ● 写真掲載